

<新型コロナウイルスで年金はどうなる？>

FPネットワーク神奈川会員 長谷川義洋

新型コロナの感染拡大で今後の世界経済が不安視される中、世界の主要な株価指数も軒並み下落しています。公的年金の積立金を運用する GPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）は 2020 年 1～3 月期の第 4 四半期に過去最大級の損失が生じたと報じています。

■年金はどれくらい運用されている？

これから年金を不安視する報道もありますし、公的年金制度は破綻するのでは、と心配する人の声も聞こえてきます。しかし、これから年金生活に入る人、現在年金が主な収入源の人は、ことさら不安をあおるような噂に振り回されることなく冷静な判断が必要ではないかと思います。

我が国の公的年金の給付財源は現役世代の保険料と税金（国庫負担）の収入が全体の約 9 割を占める賦課方式で運用されており、積立金およびその運用益によって賄われる部分は残りの約 1 割にすぎません。平成 30 年度の国民年金、厚生年金の年金給付総額は合わせて約 55 兆 6 千億円なので、この年金給付総額の約 1 割、大雑把に言って約 5 兆円～6 兆円が積立金およびその運用益によって賄われていることになります。

平成 30 年度末の国民年金と第 1 号厚生年金の積立金の合計額は 166.5 兆円あります。これに加えて共済年金が約 30 兆円あります。公的年金合計では約 200 兆円となり、国の一般会計予算の 2 年分に匹敵する額を保有していることになります。

■GPIF の運用状況について

GPIF の報告によると、平成 30 年度末の運用資産総額は 159 兆 2154 億円です。平成 31 年度（令和元年度）の運用結果はこのメールマガジンが送信される 6 月 1 日時点ではまだ確定していないと思われます。そこで、GPIF の今までの運用結果を見てみましょう。

N P O 法 人 F P ネ ッ ト ワ ー ク 神 奈 川

〒220-0021 横浜市西区桜木町 7-42 八洲学園横浜ビル 7 階

セミナー：TEL 045-620-4076 メール seminar@money.kanagawa.jp

相談：TEL 045-620-4077 メール soudan@money.kanagawa.jp

カルチャークラブ

年金積立金の市場運用を開始した平成13年度から平成30年度末までの運用益の合計は65.8兆円、収益率は3.03%となっています。

令和元年度の第3四半期（12月末）までの累計の収益額は9兆4111億円、資産額は169兆7320億円となっています。新型コロナの影響を反映した第4四半期の運用益は、マイナス17兆5千億円程度ではないかと推計されています（厚生労働省試算）。つまり、第3四半期までの運用益9兆4111億円は吹っ飛んでしまい、令和元年度のトータルでは、マイナス8兆円程度になると推計されているのです。積立金の5%程度が失われることになります。

マイナスのほとんどは国内株式、海外株式によるものと思われます。因みに、現在GPIFのポートフォリオは国内債券25%、国内株式25%、外国債券25%、外国株式25%と、株式の占める割合が50%となっています。

■公的年金への「過度な不安視」はすべきではない

新型コロナによる公的年金制度における年金給付額に対する年金積立金の影響度は、1割（年金給付財源の構成比）の部分と、今回の令和元年度の運用損5%（積立金）を乗じた0.5%程度（ 0.1×0.05 ）と言うことができるのではないかと思います。

将来の公的年金の給付水準の大部分は、長期的な経済成長率や賃金上昇率によって変わってきます。今回の新型コロナによる経済的影響は、足元のGDPや賃金を押し下げることになりますが、長期的な経済成長率や賃金上昇率をどう変えるのかはまだ分かりません。ひょっとしたら、出勤自粛によるテレワークの普及などにより多様な働き方を実現し、生産性を向上させる契機となるかも知れません。

今回のGPIFの運用損の影響度をどう評価するかは人それぞれの捉え方になりますが、公的年金への「過度な不安視」はすべきではないと思います。

N P O 法 人 F P ネ ッ ト ワ ー ク 神 奈 川

〒220-0021 横浜市西区桜木町7-42 八洲学園横浜ビル7階

セミナー：TEL 045-620-4076 メール seminar@money.kanagawa.jp

相談：TEL 045-620-4077 メール soudan@money.kanagawa.jp